

稻作と乳牛を中心とした総合経営確立の第一歩

上房郡賀陽町大字畠谷

東和4Hクラブ 難波 忠純

動 機

農業の経営も、工場経営と同様企業である以上、企業意欲を持ち原価計算のうえにたって、必ず安全主義でなければならないと思います。そこで生産費の切り下げのためにも、少ない人間、すなわち投資労働の節減を行い、家族労力を基盤とし、成立する経営でなければならぬと思います。

わが家の場合、私夫婦と母と3人で成りたつ経営、必然的に投資労力を少くする経営でなければならぬと考えます。

このような意味からも経営を簿記により分析した結果、わが家の経営規模状態においては俗にいう澱粉製造中心の営農体制では何時までたっても農家所得というものは増大しないと思い、この経営に終止符を打ち、循環経営確立にもっとも適すると思われる乳牛を導入し、水稻と乳牛を中心とした合理的酪農体制へと踏み切ったのであります。

計 画

わが地方においては耕地の規模は150アール必要とするとされています。私も耕地拡大には努力をおしまず、又一方水田には裏作をつけ、畑作においては三毛作、間作、混作と耕地利用面積を多くし、規模拡大に一方法をとり入れ、又乳牛の導入により、現金収入の増大はもとより、地力の培養、それにともなう作物の增收、生産費の切り下げと所得の増大と、このような目的で出発したのであります。

実 施

そこで対策として水稻乳牛を基幹作目として、長期計画を樹立したのであります。

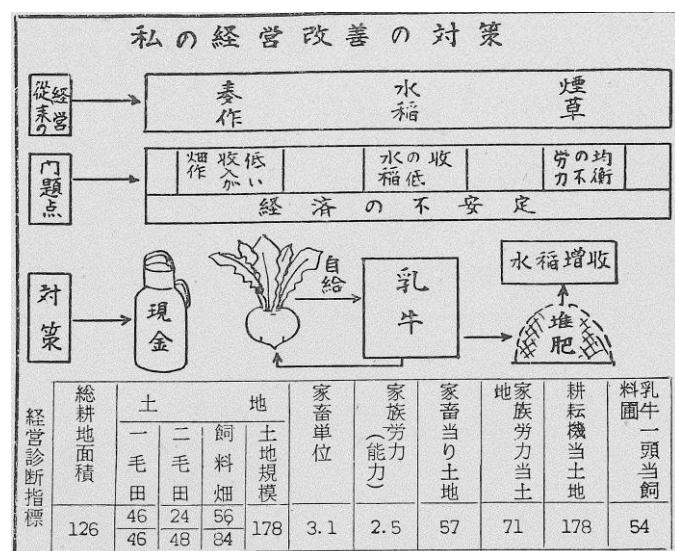
飼料自給において特に前年度の問題点であった1月から4月までの飼料端境期においては第2表のように計画実施し、不満足ながら、どうやら乗りきることができたのであります。

なお、このようにして行った年間の営農の月別投下

労働は第4表のとおり乳牛をとり入れた関係から従来の労働の不均衡を大体平均化することができました。

又、わが家の1年間の経済の動きは90,167円の農家経済余剰を上げることができたのであります。

第1表

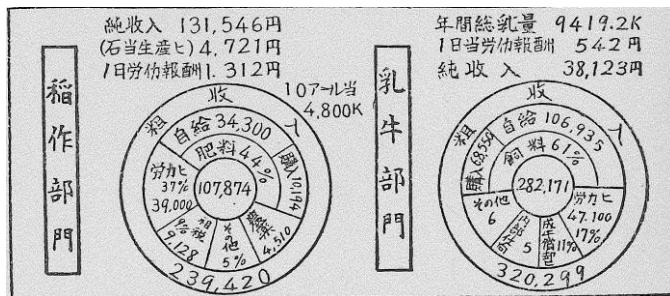


第2表

わが家の飼料自給の構造 33年度									
生産目標	6700	3700	520	450	7500	7500	1500	600	28476
100%当収	2800	3750	2600	7500	5600	3750	750	300	
作物面積	24	10	2	6	13	20	20	2	444.35
12	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	58.20 70
11	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	32.71 67
10	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	18.33 67
9	△	△	△	△	△	△	△	△	19.46 70
8				草	草	草	草	草	26.50 80
7					草	草	草	草	-27.67 76
6					草	草	草	草	38.32 75
5	○	○	○	○	○	○	○	○	39.50 72
4	△	△	△	△	△	△	△	△	40.10 69
3	△	△	△	△	△	△	△	△	38.92 65
2	△	△	△	△	△	△	△	△	50.12 64
1	△	△	△	△	△	△	△	△	54.52 65
月別	レ	シ	ゲ	エ	ン	バ	タ	コ	自
別	ン	ゲ	ゲ	エ	ン	バ	タ	コ	給
年	デ	ジ	ゲ	エ	ン	バ	タ	コ	率

岡山畜産便り 1959.10

第3表



評価反省

このように経営主として一家を支えてまいりましたが、ふり返り稻作部門をみると、堆肥の増施によって、購入肥料の節減ができ、又目標の480貫を確保することができ、水田の一部においては540貫を上まわる成績を出し、今まで有機物のあまり入らなかつたわが家の水田も数年前暗渠排水を実施したことと相まって增收できたものと思っております。

又、乳牛部門においては購入飼料代の3割強という数字は一応目標に達したといえ、基幹作目として続けて行くためにはまだまだ飼料作物の合理的な栽培、水田裏作へ飼料作物の増反をし、自給率8割以上にあげ、出来るだけ安価な牛乳を生産しなければならないと思います。又自家労力の不均衡の問題は第4表に示すとおり、乳牛を投下する労力は毎月ほぼ一定の巾を維持している点からも長期計画に示すとおり、将来乳牛5頭飼育目標は特に急いで努力するつもりでございます。

第4表

